

しかはま自然観察会

のらえもん

『人も 自然も みんなともだち !』No.21

代表責任者

古高 利男

☎270-1132

我孫子市湖北台 2-14-7

☎090-7275-9890

2014, 3, 8/9

第21回活動「のらえもん自然塾④」

・・・里地里山の雪のある生活体験・・・

- 1, 日 時：2014年3月8（土）～9（日）1泊2日
- 2, 天 気：3月8（土）雪、気温-4℃
3月9（日）快晴、気温-5℃
- 3, 場 所：みなかみ町藤原 宝台樹スキー場、上ノ原、大幽洞
- 4, 宿 泊：ロッジ樹林
- 5, 交 通：無料バス利用（東京鍛冶橋～藤原）
- 6, 参加者 家族8 内訳 大人 8
小学生 7
幼 児 3
合 計 18 スタッフ5 総計23
- 7, 活動内容：藤原村おこしプロジェクトに参加
森林塾青水とのらえもんの協働活動
*かまくら&キャンドルづくり
*サックスショーと打ち上げ花火見学
*大幽洞トレッキング
*上ノ原雪上散策
*ボタづくり
*スキー、スノーボード、ソリ遊び

8, 活動の様子

○バスの中乗っているのはのらえもん感謝しながら藤原めざす

「無料バスがでる」との連絡が入ったときは「ラッキー！」と、すぐに会員に連絡しました。どんどん増えて、23名が参加することになりました。

バスの出発地は「東京駅の鍛冶橋」ということでしたが、私は初めてで、よくわかりません。1週間前、地図を片手にそこを確認しに行ってみました。早朝、荷物を持って、迷ったときの悲劇を味わいたくなかったからです。八重洲口を皇居側だと思い、歩いて何もありません。とうとう行き止まりになってしまいました。地図を何度も見ているうちに、南口に出なければならぬことに気づきました。これが当日だったらと、気があせりました。ガード下をくぐり、ようやく「鍛冶橋」を確認したときは、ホットしました。

田舎（我孫子）で暮らしている人間にとって、東京は至る所に巨大なザウルスが動き回っているようで、早く逃げだしたくなります。落ち着ける空間はどこにも見あたらず、建物・交通・店・人すべてからはじき飛ばされそうでした。

○「かまくらを一度は作ってみたかった」満足そうなその子の顔は

「かまくらを、1回は、つくってみたかったんだ」というその子は、自分たちで雪を集め、穴を掘りました。大人用のスコップでは、思うように雪穴を掘れません。でも、帽子や手袋を雪に染めながらの作業は、満足のいくものだったようでした。

○雪山をころがり降りてくるたびに笑い声が雪をとかしてる。

今度は、斜面を登り、体ごところごところがつてくる遊びに夢中でした。何度も何度も、登ったりころがったり……。全身真っ白になりながらも、冷たさは感じられません。響いてくるのは、友だちとの透き通るような笑い声だけでした。

○キャンドルを点せばここは夢の国雪のお家にローソク明かり

辺りが暗くなる頃、ローソクに火が点りました。だんだんと明かりが輝いてきました。白い雪に反射して、七色の光を発しています。そんなかまくらのお家に、お父さんお母さんに手を引かれて子どもたちがそっと入って行きます。不安と興味の入り交じった眼差しをしながら……。

○真っ暗な山から上がる冬花火きれいな色がボンボン上がる

里山での冬の花火は初めてです。ジャズの演奏が終わると、きれいな模様の花火が次々に上がりました。なにしろ真っ暗な中から、ボンという音とともに光輝くのですから、寒さを忘れてその美しさを堪能しました。

○夕食は24人の大家族もりもり食べて楽しい語らい

のらえもん21人、小田原から来てくださった及川さんはかわいいお孫さんと、そして森林塾青水塾長の清水様、合計24名の大家族で夕食です。いいですね～！！いただきますの挨拶は平松健人くん、ごちそうさまの挨拶は矢野陸くん。2人とも、今日の活動の様子をしっかりと言葉で表現してくれました。お隣の家族との交流もあり、ほんとうに楽しい夕食でした。

○フカフカの雪の中まで歩いて行く里地の文化カンジキの力

○こうやってひもを通せばほどけないとつとつ語る惣一郎さん

朝食前に外に出ると、もう惣一郎（民宿の主人）さんがカンジキを持って待っていました。カンジキのひもの結び方を「こうやれば、ほどけないんさ」と体験からの実感のこもった説明をしてくれます。早速、フカフカの雪の上を歩いてみました。不思議なことに、靴は途中で止まり、それ以上潜らないのです。ですから、新雪のフワフワ雪の上でも、スイスイと歩けます。矢野さんのお母さんは、「あんなところへ……」という場所まで行ってしまいました。そして、簡単な縛り方なのに、惣一郎さん伝授の縛り方は、少しもゆるみません。里地の生活の中から生まれた技術には、みじんの偽りもありません。

○さあ一行くぞ足にはみんなスノーシュー慣れない雪に足をとられつつ

大幽トレッキング組は、登山口で、北山さんの指導でスノーシューをつけました。つけるところから、もう大変です。ましてや、それで雪道を歩くのですから……。時間の経つうちに、だんだんと慣れてきました。それでも、坂道になると難儀しました。

○動けない雪のあつかいわからない斜面の先は大幽窟だ

目の前が目的地の大幽窟だというのに、雪の急斜面にどうすることもできません。春日さんがステップをつくり、なんとか這い上がってきました。

○たどり着く大幽洞の入り口に見れば氷の筈が立つ

「もう、くたくた」といいながら、大幽洞の氷筈をみたとたん「きれいだね〜!」「がんばって、よかった!」という自分だけの言葉が出たお母さん。ほんとうにあきらめず、よくがんばりました。時間がかかっても、たどり着いたことに大きな意義があるのでした。

○大幽の坂から下る尻セードキャーキャー叫び子どもに帰る

○雪面を一気に下る尻セード気分は最高この一体感

下りはお尻をつかって、一気に滑り降りました。急斜面であるほどスピードが出て、爽快感がわいてきます。みんな初めての経験で、自然にキャーキャーと声が出てきました。雪と人との一体感の瞬間でした。「苦あれば楽あり」の瞬間でもありました。

○一列に赤青黄が並んでる谷川連峰上ノ原から

わずかに動物の足跡が残るだけの真っ白な上ノ原の雪原に、大幽トレッキングの仲間達は一列に並びました。雲一つ無い眼前には、真っ白な谷川の神々の山が横一列に並んでいます。見ているだけで、なにかしら荘厳な気持ちになってくるのは、私一人だけではなかったでしょう・・・。

○オミナエシススキも眠る上ノ原雪の重みは命の芽吹き

2m以上もある雪。その下には、秋の七草であるオミナエシやススキが眠っているはずです。雪と地面の間は0℃以下にはならないということです。そこでしっかりと新しい命を育てているのでしょうか。新しい命のためなら、雪の重みなんか少しも苦ではないのでしょうか。

○継続は力であるという証子の行動に確かな一歩

大幽トレッキングのとき、冬芽の説明を聞きながら、平松健人くんが「葉痕」という言葉を口にしました。一人がこの言葉を使えるということは、その裾の広がりがあるということです。うれしい場面でした。また、矢野陸くんは、ごちそうさまの挨拶を、お母さんの前で何度も練習をしたそうです。この気持ちは、大きな成長の証ですね!!!

9、親と子の、いきいき感想

○2日目のトレッキングは、めっちゃめっちゃつらかったです。でも、ゴールがすごかったから、よかったです。

ひょうじゅん（氷筈）は、つくしみたいでした。

どうくつは めっちゃせまいよ きよつけれ 扇小5年

*トレッキングでは、先生達のおかげで、すばらしい氷柱を見ることができ、登りの辛さも消え、最高でした。先生方には感謝しております。ありがとうございました。

銀世界 都会には無い 清らかさ

雪遊び 子どもと共に 幸思う 母

○キャンドルナイトで（は）、はなびとキャンドル、がっきでえんそうしてくれたので、きれいだった。

キャンドルが あっちこっちに ひかっている 鹿浜小1年

○1日目はスノーボードで、2日目はスキーで、リフトにのって、楽しかった

です。スキーで、中上級コースでもすべれて、よかったです（こわかったけど：笑い）。スノーボードも一人で練習して、最初よりけっこうできるようになったので、よかったです。楽しかった！

二日間 スキーにスノーボード 楽しいな 横浜市上末吉小6年

- 今回ののらえもんは、トレッキングでどうくつまでいきました。行くときはつかれたけれど、ついた時にひょうじゅん（氷旬）がとてもすばらしかったので、がんばれました。（ガッツマークの絵がありました）

雪山を 歩いてついた ひょうじゅんだ 鹿浜第一小3年

*「かまくら作り」「キャンドルナイト」「雪の中のトレッキング」すべてが最高でした！

汗かいて かまくら作り 初めてだ

氷旬は 自然の芸術 観る価値あり 母

- タイヤチューブであそんだ。そりであそんだ。かまくらであそんだ。たのしかった。 太陽保育園年長 しみず たいち

- 今日ときのうのかんさつ会ではいろんなことをやりました。たとえば、いただきますのあいさつをしました。うまくできて、よかったです。

スキー場 小さなかまくら つくったよ

北鹿浜小2年

- 今日は、雪国に行きました。ぼくは、雪が大好きです。なので、かまくらとスキーをやりました。もう、最高でした。楽しかったです。

やねのした しんぱつりょく はんぱない 栗原北小5年

- かまくらにはいって、きもちよかった。ゆきバクダンが、おもしろかった。

清水保育園ひまわり組年中 くりはら かんた

- スキーを、もっとやりたかったです。おもしろかったです。また、やりたいです。 鹿浜西小1年

*かまくら・キャンドル受けの穴作り、足が凍傷にかかる位つめたくなかったが、楽しく作業ができた。冬の花火は規模は小さいものの、きれいだった。大人の反省会の二次会で、藤原町の水上からの独立話には大変興味を持った。いろいろ勉強して、藤原の活性化を考えたい。

大幽トレッキングツアーは、大変良かった。木々の枝に積もる雪も良かったし、時折落ちてくる雪も、アニメの中に出てくる映像のようだった。そしてたどり着いた所にあった自然の芸術「氷旬」に、皆感動していた。帰りに見た谷川連峰も、最高の天候の中で、表現できないほどきれいだった。

ヒロ（息子）は初スキーで（2度目かな？）けっこう楽しんでいたし、上達もしたみたい。道斉先生、ありがとうございます。

カンジキの キュッキュッの音が 心地よい 父

- スキー場として、上級者から初心者まで、幅広く対応できる場所です。

「樹林」も、とてもよかったです。

晴れわたる 藤原の里 雪光る スタッフ 道斉 強

- 初めて参加した。活動が散漫で、いろいろ取り組みすぎた様に思う。子どもの活動を中心とした内容の企画を考えていくことが必要。

かまくらに とるるキャンドル 人恋し スタッフ 満園 太